

## 1060 | デザインリサーチⅠ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

田村裕教授、金子伸二教授、小池利佳講師、白井新太郎講師

## 授業の概要と目標

「考現学」の手法を応用して、日常の生活風景や風俗・人物行動などの観察記録を行ない、特徴的な傾向やタイプ（類型）を比較分析して、新たな発想を得たり、現代の生活文化への理解を深めていく。本科目で行うデザインリサーチとは、特定の製品開発を目的とした調査ではなく、人間の行動や身の回りの状況を調査するものであり、目の前の現象を様々な角度から観察・分析することで、創造的な発想にいずれ結びつくような「新鮮な発見や気づき」を得ることに目標がある。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

「『通行人』の考現学的調査」

自分の住む街（市区町村）で任意の道を選び、そこを通る人々の風俗・行動・属性などを考現学の手法を用いて調査して、その結果を B4 判の白無地用紙 1 枚以上に「調査報告書」としてまとめる。何を調査するか＝調査テーマ・調査対象（調査項目）は自分で設定。調査結果は、スケッチ、図解、グラフ、表などを用い、第三者にもわかりやすく表現する。

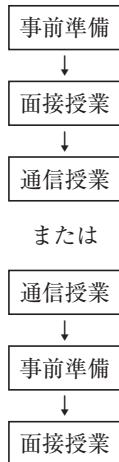
## ○面接授業課題

「身近な生活環境における『現代の日本らしさ』調査」

「事前調査」として、身近な日常生活において、街の風景や風俗、習慣、人の行動などに見いだされる「現代の日本らしさ」を調べておく。調査したデータや写真あるいはスケッチなどを面接授業時に持参して、その調査結果や分析から気づいた点を B4 判の「調査報告書」1 枚以上にまとめる。調査結果は、スケッチ、図解、写真、グラフ、表などを用い、第三者にもわかりやすく表現する。

\* 課題については学習指導書『デザインリサーチⅠ・Ⅱ 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画



## [面接授業]

第 1 日 午前：前提講義

・考現学と課題についての講義及び調査報告書制作のための調査概要の各自報告、グラフ表現の方法など

午後：調査報告書制作

第 2 日 調査報告書の作成と完成

OLP オンラインプラス [結果] —BBS 上での面接授業振り返り

Web 上にアップロードした完成作品をもとに、ディスカッションを行う。

## [通信授業]

教科書の目次より

第 1 章 今和次郎・考現学の方法を起点として

1. 考現学への道のり 2. 考現学の誕生 3. 考現学とは何か 4. 考現学の手法

第 2 章 考現学の復興と継承

1. 1970、80 年代の考現学再認識と研究グループの誕生  
2. 1990 年代以降・考現学の系譜、その多彩な広がり

第 3 章 考現学の手法を生かしたデザインリサーチ

1. 武蔵野美大の学生によるフィールドワーク  
2. 調査研究事例紹介 〈a〉街並みの記録と都市の調査 〈b〉風俗調査 〈c〉人物行動調査 〈d〉その他

---

**成績評価の方法**

面接授業及び通信授業における各々の報告書制作物で総合評価。

---

**履修条件及び履修年次**

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備考] 芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース指定科目。

造形研究コース・文化支援コース進学希望者は、1年次に履修すること。(2年次編入学生は2年次)。造形研究コース・文化支援コース3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある(造形研究コース・文化支援コース進学希望者を除く)。

オンラインプラス(Web上で行う面接授業補助プログラム)を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

---

**教材等**

教科書：田村裕、白井新太郎、中尾早苗『デザインリサーチ』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

学習指導書：『デザインリサーチ I・II 平成29年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年)